市内景気動向調査結果

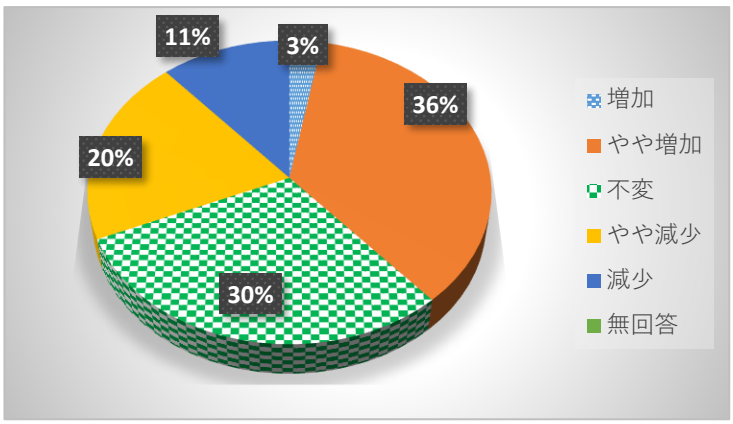
この調査は、第３四半期（令和７年１０月から１２月）と前年同期間（３ヶ月）の比較を、当商工会員より回答いただいたものです。

有効回答数	建設業	製造業	運輸業	卸小売業	サービス業	その他
70	18	11	－	18	17	6

※その他は、回答数が少なかった運輸業、不動産業、

１．売上高はどう変化したか。

増加	2
やや増加	25
不変	21
やや減少	14
減少	8
無回答	
合計	70



【コメント】

○ 増加・やや増加が38.6%、不変が30.0%、やや減少・減少が31.4%であった。前年同期では、増加・やや増加が51.9%、不変が27.3%、やや減少・減少が20.8%であった。売上高増加の勢いがなくなり、減少の割合が増えた。

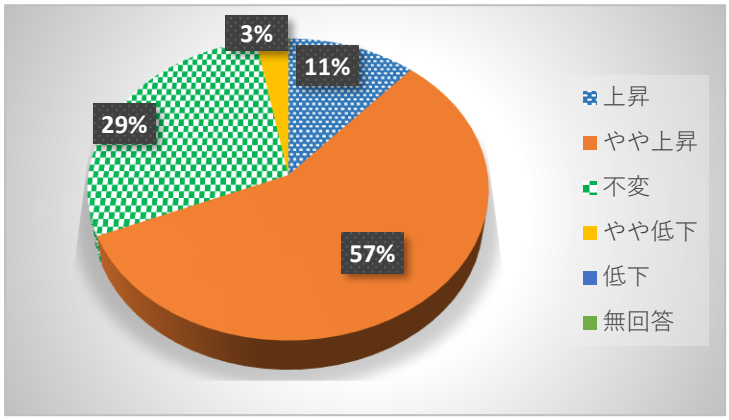
○ 増加・やや増加の業種別割合は、運輸業が60.0%、サービス業が58.8%、卸小売業が38.9%、製造業が36.4%、建設業が16.7%であった。

○ やや減少・減少の業種別割合は、建設業が38.9%、製造業が36.4%、卸小売業が33.3%、サービス業が29.4%であった。

○ 建設業の悪化が目立ち、サービス業では二極化している。

２．仕入単価はどう変化したか。

上昇	8
やや上昇	40
不変	20
やや低下	2
低下	
無回答	
合計	70



【コメント】

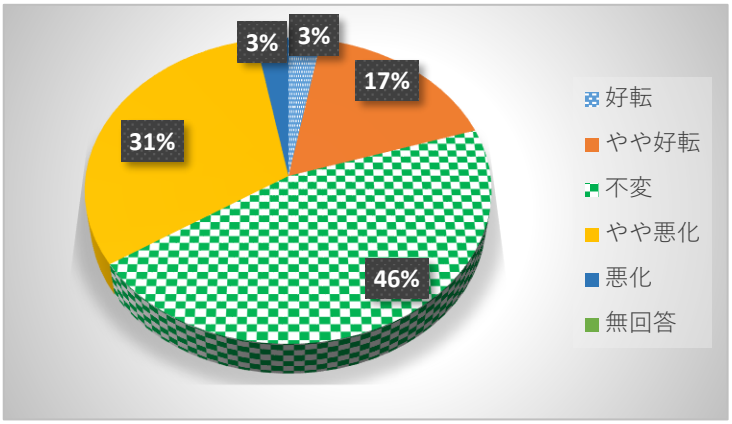
○ 上昇・やや上昇が68.6%、不変が28.6%、やや低下・低下が2.8%であった。前年同期では、上昇・やや上昇が80.5%、不変が16.9%、やや減少・減少が2.6%であった。

○ 上昇・やや上昇の業種別割合は、製造業が90.9%、卸小売業が83.3%、建設業が66.7%、運輸業が50.0%、サービス業が47.1%であった。

○ 依然として原材料価格や仕入価格が上昇しており、経営に大きなダメージを与えている。

3．採算について

好転	2
やや好転	12
不変	32
やや悪化	22
悪化	2
無回答	
合計	70



【コメント】

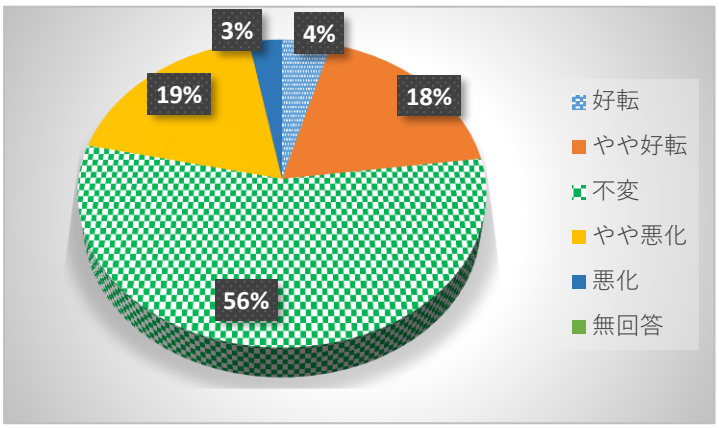
○ 好転・やや好転が20.0%、不変が45.7%、やや悪化・悪化が34.3%であった。前年同期の好転・やや好転が41.5%、不変が29.9%、やや悪化・悪化が28.6%であった。

○ やや悪化・悪化の業種別割合は、製造業が45.4%、卸小売業が44.4%、サービス業が35.6%、建設業が27.8%となっている。

○ 原材料や仕入価格、人件費の上昇が続いており、採算の悪化が長引けば事業継続が難しくなる局面も考えられる。

4．資金繰りについて

好転	3
やや好転	13
不変	39
やや悪化	13
悪化	2
無回答	
合計	70



【コメント】

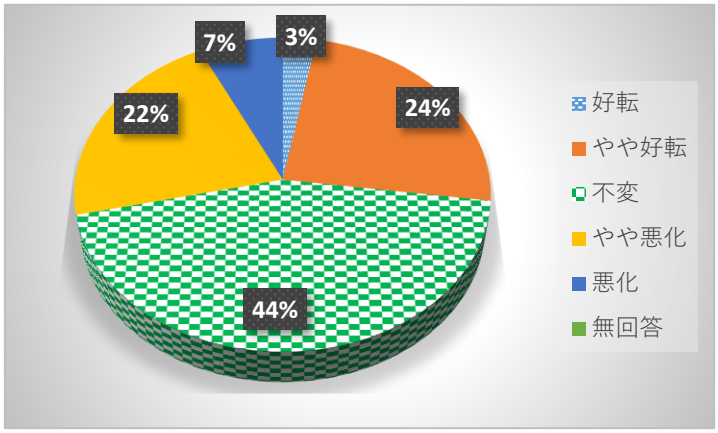
○ 好転・やや好転は22.9%、不変が55.7%、やや悪化・悪化が21.4%であった。前年同期の好転・やや好転が26.0%、不変が62.3%、やや悪化・悪化が11.7%であった。

○ 資金繰り悪化の業種割合では、卸小売業が27.8%、製造業が27.3%、建設業が22.2%、サービス業が17.6%であった。

○ 採算の悪化から、前年同期に比べて悪化が10ポイントほど増加している。

５．業況について

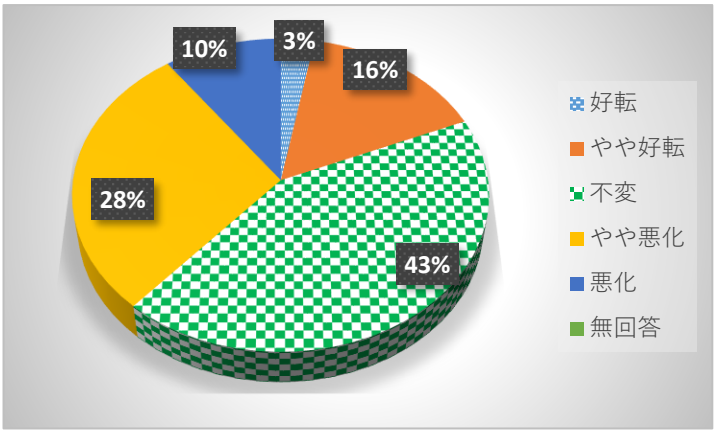
好転	2
やや好転	17
不変	31
やや悪化	15
悪化	5
無回答	
合計	70



【コメント】
○ 好転・やや好転は27.1%、不変が44.3%、やや悪化・悪化が28.6%であった。前年同期は、好転・やや好転が33.3%、不変が46.7%、やや悪化・悪化が19.5%であった。
○ 業況悪化の割合が高い業種では、製造業が36.4%、サービス業が35.3%、卸小売業が33.3%、建設業が22.2%であった。

６．今後３ヶ月間の業況について

好転	2
やや好転	11
不変	30
やや悪化	20
悪化	7
無回答	
合計	70



【コメント】
○ 好転・やや好転が18.6%、不変が42.8%、やや悪化・悪化が38.6%で、前年同期では、好転・やや好転が23.4%、不変が44.1%、やや悪化・悪化が32.5%であった。
○ 今後3ヶ月間の業況予想でも、改善は程遠い状況であるが、高市内閣の積極財政による経済対策を早急に実施することが望まれる。

■回答事業所からのコメント

【建設業】
○ 仕事が増えてはいるが単価が安い。人件費が上がっている。
○ 冬季休業中のため、収入面はないが去年の売上でやり繰りしている。注文は入っている。
○ 1～3月は手持ち工事なく、除排雪頼りになるが見直すことができない。
○ Q7は冬期に入るため工事がありませんので工事高は減少です。
○ 人員不足による稼働率低下と営業力低下、物件情報・受注物件の減少。
○ 北広島市の仕事が少ない分売り上げは減少傾向にあり、不足分を賄うのに四苦八苦している。今後3月は竣工予定の工事もあり安堵しているが、4月以降の受注見込みが不透明である。

○ この時期に選挙が重なり、営業活動が止まってしまう。

【製造業】
○ 国際情勢の変動に伴う中国人観光客の減少から影響があった。原材料は単価が上昇傾向である。上半期が売上好調であったため今期現状はプラスであるが、今後の状況に注視している。
○ 最不需要期のため売上期待できぬ。
○ 生産量の増加、受託卸単価の見直し改訂を積極的に進めたため売上げは辛うじて収益増に転じた。ただ原材料高騰にエネルギー費を含めた諸経費が重なり、工場新築時からの減価償却が残り増収はあるが収益が出せない結果であった。前年同期比変わらずの状況が続いている。
○ 販売ルートが大きく変わり、先行して販売した在庫を他社が売っていることら在庫が増加している。1月からは自社品が売れ始めるためやや好転の予定。
○ ラビダスの量産工場の鉄骨や、サプライチェーンの設備投資、インバウンドによるホテルなどの投資ほか。
○ 物価高騰により利益率が著しく低下している。

【運輸業】
○ 料金の見直し
○ 前年と比較して売上高は上昇したが、人件費や部品代等の経費の単価が上昇したことに伴い、純利益はさほど変わりなかった。今後3カ月については、スキーバスなどでバスの稼働が増える見込みであり、好転に転じると予測している。

【卸小売業】
○ 仕入に苦労していて、売る車がない
○ 3年前より全道各地(別海町・沼田町等)でバイオ消化液活用による陸無栽培の実施から収益向上が望めることから、今後有機質肥料として販売量が増加するものと考えられる。
○ 11、12月はインフルエンザの流行で除菌消臭水の売上は上がったが、冬休みになると需要が落ちている。イベント出店は個別に出店し、効率はあまりよくない。大きなイベント出店が売り上げ拡大に期待している。
○ 常務取締役を独立させ為と内地の売上を譲渡したため
○ 仕入単価の上昇に伴い売上単価を上乗せできていない部分もあり、やや悪化している。
○ メーカー・問屋の仕入れ価格は上昇しているが、販売価格に全てを転嫁できていない(年契約のため)
○ 12月は年間通じても繁忙期となり、来客数・売上ともに好調だった。一方1～3月にかけては季節的要因もあり来客数の減少が見込まれている。それに伴い売上げも落ち込む予想。

【サービス業】
○ 1～3月は建設業特に土木は少ない為売り上げは減少予測。
○ 仕入原価は増加したものの、売り上げも増加しているため業況は好転(昨年より利用客が増えた)。
○ 融資も決まり、資金繰りも安定してきたため。
○ 物価上昇・人件費増。
○ 原材料は高騰しているが、その分を価格に転嫁でき、売上も増加したため業績が好転した。売上げの増加・仕入単価の上昇。
○ 委託費の増加や主催事業により売上高は増加するも、人件費やエネルギー・物価高騰によりコスト増が大きく、業況としては悪化傾向にある。
○ 取引業者の縮小により全体的に物量が減少した。
○ 10、11月は業界的に閑散時期ではあるが、顧客先の稼働変動幅が少なかったこと、受注価格の適正な転嫁を継続的に行い、売上予算から若干の上積みができた状況であった。今後の1～3月は経費率が高い燃料費の市場動向や物価高に伴う備品・修繕費の影響から収支状況がやや悪化する想定である。

○ 臨時休業したため。

【その他】
○ 1～3月は退去者が多く、入居者が少ないため収入減。